様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １５ 日現在

機関番号：３４３０９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2023
課題番号：２１Ｋ１０６１９

研究課題名（和文）実習指導者の教育力向上のためのシミュレーション教材作成共同学習プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a Joint Learning Program for Creation of Simulation Materials to Improve the Educational Skills of Practicum Instructors

研究代表者
マルティネス　真喜子（Martinez, Makiko）

京都橘大学・看護学部・准教授

研究者番号：１０５９９３１９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：実習指導者と大学教員との実習指導シミュレーションを含む協働学習会を通して、実習指導者は、自己や他者の教育実践を直ちに教材化し、他の指導者・教員・学生という、臨地実習に関わる様々な他者との多声的で協働的で即時的な省察が可能になることが明らかとなった。また、実習指導の方法のみならず指導者としての立ち位置や存在意義、病棟の指導力を向上への可能性を見いだすといった気づきが得られた。これらの学習経験は、実習指導の自己省察では得られない、学びの実感を伴っており、本学習会は、指導スキルを形成するための効果的なトレーニングにつながる可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究における実習指導協働学習プログラムの開発では、実習指導者および大学教員の実習指導力向上の有効性が示唆された。協働学習プログラムの中で実習指導シミュレーションを組み込むことにより、１）実習場面における的確な教材化能力が向上すること、２）他の指導者・教員・学生という、臨地実習に関わる様々な他者との多声的で協働的で即時的な省察が可能になること、３）実習指導の方法のみならず指導者としての立ち位置や存在意義、病棟の指導力を向上への可能性を見いだせること、等が明らかとなった。看護基礎教育分野に限らず、看護現場における新人教育や現任教育にも活用できる教育プログラムであることが示唆される。

研究成果の概要（英文）：Through collaborative learning sessions that included simulations of practical training between practical training instructors and university faculty members, it became clear that practical training instructors can immediately turn their own and others' educational practices into teaching materials, and that they can make polyphonic, collaborative, and immediate reflections with various others involved in the on-site training, such as other instructors, teachers, and students. In addition, the practical training instructors were able to realize not only the method of practical guidance, but also the position and significance of their existence as instructors, and the possibility of improving the leadership skills of the ward. These learning experiences were accompanied by a sense of learning that could not be obtained through self-reflection in practical training, and it was suggested that this study session may lead to effective training for the formation of teaching skills.

研究分野：看護教育

キーワード：看護教育　シミュレーション教育　看護実習指導

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

近年、看護系大学の急増に伴い、臨床実践能力の向上やそのための教育の質保証が重大な課題となっている。特に臨地実習は、看護学生が看護現場に身を置き、学内で学んだ知識・技術・態度を統合しつつ、具体的な看護実践の方法を習得することを目指した重要な学習活動と位置づけられている。学生が実習目標の達成に向けて効果的な実習が展開できるよう、実指導者と教員が指導能力を向上させることも重要であることが明らかにされている（伊勢・舟島・中山, 2017）。また、「看護を必要とする人々の心身の状態とそれに対する看護の必要性の判断など、臨地で目の当たりにする事象に基づいて深い思考を伴いながら学べるようにするには、実習指導者と看護教員の連携が重要である」（厚生労働省，2011）と言われている。
つまり、臨地実習における学生の良質な学びを支援するためには、実習指導者と看護教員双方の「指導能力の向上」と「連携の強化」、この 2 点を推進する取り組みが必要となる。
実習指導に関する知識や教授スキルの向上のため、様々な施設で講習会や研修が開かれているが、「指導力向上と連携の強化」を目指した学習プログラムの内容や構成に関して十分な議論がなされ、検討されているとはいえない。臨地実習は指導者と教員が連携して取り組むべきであり、教育の質保証という看護教育上の重要な課題を解決するためにも双方が共に学び、教育力を高める学習プログラムを開発し、発展させていくことが必要である。

２．研究の目的

臨地実習指導者と大学教員が協働し、互いの指導力の向上と連携強化をねらいとしてシミュレーション教材の作成、学生へのシミュレーション教育を実施する共同学習プログラム開発を行うことである。

３．研究の方法

本研究では、実習指導者と大学教員の指導力の向上、連携強化に向けた共同学習会プログラムの開発を目指す。
共同学習プログラムは、我々が 2018 年より実習協力病院の実習指導者と取り組んでいる協働学習会の取り組みをもとに、プログラムの改善を試みるものである。協働学習会は、臨地実習指導者と大学教員が協働し、①教授・学習理論の基盤を学び、②教材化・教授法を学びつつ、シミュレーション教材を作成していく。さらに作成したシミュレーション教材を用いて、学生対象の演習を実施することを通し、③ファシリテーションや、④リフレクションの実際を学ぶ。またシミュレーション演習実施後に学生に対してインタビューを行い学習者からの教育評価を受けるまでがセットされたプログラムとなっている。
本研究は、デザイン実験、インタビュー調査による質的研究、質問紙調査をミックスメソッドで行うこととした。臨床実習指導者と大学教員がシミュレーション教材を作成することで、教育力の向上と連携強化を目指す。研究期間には、以下のことを明らかにする。

①臨床実習指導者（2～3 名/グループ）と大学教員（1～2 名/グループ）が協働して取り組む共同学習プログラムの構築
②実習指導者及び大学教員のプログラム参加前後での指導力の評価
　プログラム参加者のインタビューによる質的分析および教授活動自己評価尺度による量的分析を行う。
③協働学習プログラムの評価
　プログラム参加者のリフレクション内容の質的分析、およびプログラム評価に関する質問紙調査からの量的分析を行う。

【協働学習会の実施】
2021 年
第１回：臨地実習と臨地実習に参加する学生の特徴
第 2 回：臨地実習における看護現象の教材化
第３回：臨地実習における効果的な教え方とかかわり方
第 4 回：臨地実習において学生が良質な学びを経験する学習環境
第５回：実習指導案の見直し
第 6 回：シミュレーション演習案の作成
第 7 回：各グループシミュレーション演習案の検討
第 8 回：シミュレーション演習案‐デブリーフィングポイントの検討‐
2022 年
第１回：臨地実習と臨地実習に参加する学生の特徴（5 月 20 日）
第 2 回：臨地実習における看護現象の教材化（6 月 17 日）

第３回：臨地実習における効果的な教え方とかかわり方（9 月 16 日）
第４回：臨地実習において学生が良質な学びを経験する学習環境（11 月 18 日）
第５回：実習指導のシミュレーションに向けた準備学習（2023 年 1 月 20 日）
第６回：実習指導場面のシミュレーション学習（2023 年 2 月）
2023 年
第１回：臨地実習における看護現象の教材化（8 月 18 日）
第２回：臨地実習における効果的な教え方とかかわり方（9 月 15 日）
第３回：臨地実習において学生が良質な学びを経験する学習環境（11 月 17 日）
第４回：第 5 回に向けた事前オリエンテーションと机上シミュレーション（2024 年 1 月 19 日）
第５回： 臨地実習における学生指導のシミュレーション（2024 年 2 月 13 日）

【実習指導シミュレーション】
➢実習指導シミュレーションシナリオ
　病棟の特性に応じて、グループを編成し、基礎看護学実習（呼吸苦のある患者のバイタルサイン測定場面）、成人看護学実習（術後の初回離床場面、術後の初回清拭場面）、総合実習（人工呼吸器装着患者の足浴場面）、小児・母性看護学実習（ケアを拒否する 2 歳児へのバイタル測定場面）に対応したシナリオを作成する。各グループでシナリオの内容を検討する。
➢シミュレーションの実施場所、参加者
　シミュレーションは実習協力病院の空き病室を借り、実施。
参加者は、協働学習会に参加している実習指導者会のメンバー（各グループ 2～3 名）、大学教員（各グループ 1～2 名）、看護学生（3 年生、各グループ 2 名）である。
➢シミュレーション・プログラム
① ブリーフィング[10 分]
② シミュレーション[ベッドサイドの指導場面 15 分＋学生との振り返り場面 15 分]
③ ショート・リフレクション[10 分] ：シミュレーション実施者が各自で振り返りを行う
④ デブリーフィング[45 分]：グループメンバーで振り返りをおこなう。学生の意見も引き出す。
　① ～④をシミュレーションでの役割を交代して 2 クール実施する。

４．研究成果
　インタビュー調査の実施
本学習会終了後、研究協力が得られた実習指導者にフォーカスグループ法によるインタビューを 2023 年 2 月に実施し、データを質的記述的に分析した。

質的調査からの結果【１】
『「学生指導シミュレーション」を取り入れた臨地実習指導の協働学習会に参加した実習指導者の学習経験』
➢シミュレーション・プログラム
⑤ ブリーフィング[10 分]
⑥ シミュレーション[ベッドサイドの指導 15 分＋学生との振り返り 15 分]
⑦ ショート・リフレクション[10 分]
⑧ デブリーフィング[45 分]を 3 グループに 2 クール実施した 。
➢場面設定：①呼吸苦のある患者の VS 測定②術後初回離床③術後初回清拭。
➢参加メンバー：①一般病棟の指導者 2～3 名②教員 1 名③学生（学生役）1 名
➢インタビュー : 本学習会終了後、研究協力が得られた指導者 7 名にフォーカスグループ法によるインタビューを 2023 年 2 月に実施し、データを質的記述的に分析した。
➢結果
　指導者の学習経験として 11 カテゴリが抽出された。指導者は、第 1～4 回学習会における他の指導者や教員との学び合いから《**自己の学生指導を良くする手がかりの獲得**》をし、《**自己の学生指導の傾向性の認識と改善点の見出し**》や《**学生指導において大事にしたい教育的な関わりの再発見**》等をしていた。それらの学習経験は《**臨地実習における自己の学生指導の変容**》をもたらしていた。一方で《**未解決のままのジレンマ**》もあった。第 5 回学習会では、指導者は他の指導者・教員の教育実践の観察や他の指導者・学生からのフィードバックを通して《**参加メンバーとの自己の指導方法・スキルの多面的ブラッシュアップ**》を図っていた。また指導シ ミュレーション参加前には《**学生指導を他者に観られることや言語化することへの緊張**》が強かったが、参加後には《**シミュレーションにおける対話的空間での学びの深まり**》を実感し、《**前向きな感情の醸成**》を経験していた。

これらの結果より、実習指導シミュレーションでは、自己や他者の教育実践を直ちに教材化し、他の指導者・教員・学生という、臨地実習に関わる様々な他者との多声的で協働的で即時的な省察が可能になる。その経験は、実習指導の自己省察では得られない、学びの実感を伴っており、

本学習会は、指導スキルを形成するための効果的なトレーニングにつながる可能性が示唆された。

質的調査からの結果【２】
『協働学習会における「小児看護学実習　学生指導シミュレーション」に参加した実習指導者の学習経験』
➢シミュレーション・プログラム
① ブリーフィング[10 分]
② シミュレーション[ベッドサイドの指導場面 15 分＋学生との振り返り場面 15 分]
③ ショート・リフレクション[10 分]
④ デブリーフィング[45 分]。指導者が役割を交代し 2 クール実施した。

➢参加メンバー：①小児科病棟と産婦人科女性病棟の指導者各１名、②母親役指導者１名、③教員１名、④学生（学生役）２名。
➢インタビュー : 学生指導シミュレーション終了後、研究協力が得られた指導者２名にフォーカスグループ法による半構造化インタビューを実施し、データを質的記述的に分析した。
➢結果
学生指導シミュレーションにおける指導者の学習経験として、12 サブカテゴリ、５カテゴリが抽出された。指導者は、『指導者の存在が安心感を与えることに気づく』といった≪小児看護実習における指導者の立ち位置に気づく≫ことをはじめ、≪自身の実習指導を見つめ直す機会となる≫≪自身の実習指導の方法を再検討する機会となる≫≪実習場面を再現できることで学生との関わり方を改めて学ぶ≫といった自身の実習指導をふり返る機会となるだけでなく、≪シミュレーションの病棟看護スタッフの指導力向上への有効性に気づく≫といった病棟の指導力の向上へも思考を発展できる学習経験をしていた。

これらの結果より、小児看護学実習では、患児と付き添いの母親等が主な対象となることが特徴的であり、日頃学生の学びを促す実習指導ができているのかをふり返る機会が少ない中、今回の学生指導シミュレーションを通して、実習指導の方法のみならず指導者としての立ち位置や存在意義、病棟の指導力を向上への可能性を見いだすといった気づきが得られたことがわかった。しかし、小児看護学実習を想定したシミュレーションでは、患児をシミュレーターにせざるを得ないため、リアリティが不足してしまう。このような環境設定により、小児看護実習特有の指導の振り返りが不十分となることが課題である。

結論
　本研究において、実習指導者と大学教員がよりよい看護学実習を展開するための協働学習を実施し、双方の指導能力向上のための学習プログラム開発を行ってきた。
従来の学習会は、講義形式、グループディスカッション形式であったが、本プログラムではそれらに加え、実習指導シミュレーションを組み込んだ。このシミュレーションにおいて、実習指導者が上記結果のような学習経験をし、実際の実習指導場面で活用できる様々な気づきを得ることができていた。特に、実習指導シミュレーションでは自身の指導状況を他者と共有し、また他者の指導場面を見ることができる点、そして学生からの指導に対するフィードバックを得られる点が重要であることがわかった。この点は、本学習プログラムの最大の特徴である。
一方、他者の前で実習指導を行い、指導観などを言語化する緊張感、困難感といったシミュレーション自体の課題は払拭しきれていない。環境づくりを含めて今後検討していく。
　本学習プログラムは、看護基礎教育における臨地実習での指導力向上を目的としているが、医療機関における現任教育、新人教育の指導力向上に向けた研修等でも応用できると考えられる。今後も学生の良質な学びの支援を行っていくために、さらなる検討を積み重ねる必要がある。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 奥野信行・萬代彩子・深尾沙紀・時岡辰汰郎・岩崎由美子・マルティネス真喜子
２．発表標題 「学生指導シミュレーション」を取り入れた臨地実習指導の協働学習会に参加した実習指導者の学習経験
３．学会等名 第43回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2023年

１．発表者名 奥野信行
２．発表標題 クリティカルケア領域の実習担当者を対象とした「学生指導シミュレーション演習」における　実習指導者の体験
３．学会等名 第19回日本クリティカルケア看護学会学術集会
４．発表年 2023年

１．発表者名 奥野信行・萬代彩子・深尾沙紀・時岡 辰汰郎・岩崎由美子・マルティネス真喜子
２．発表標題 「学生指導シミュレーション」を取り入れた臨地実習指導の協働学習会に参加した実習指導者の学習経験
３．学会等名 第43回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2024年

１．発表者名 岩崎由美子・マルティネス真喜子・奥野信行・上山晃太朗・森脇有希代
２．発表標題 協働学習会における「小児看護学実習　学生指導シミュレーション」に参加した実習指導者の学習経験
３．学会等名 第34回日本看護教育学会学術集会
４．発表年 2024年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	前川　宣子（河原宣子） (Kawahara Noriko) (00259384)	京都橘大学・看護学部・教授 (34309)	
研究分担者	奥野　信行 (Okuno Nobuyuki) (20364044)	京都橘大学・看護学部・教授 (34309)	
研究分担者	萬代　彩子 (Bandai Ayako) (30875612)	京都橘大学・看護学部・助手 (34309)	
研究分担者	時岡　辰汰郎 (Tokioka Shintaro) (60876499)	京都橘大学・看護学部・研究員 (34309)	
研究分担者	野島　敬祐 (Nojima Keisuke) (70616127)	京都橘大学・看護学部・准教授 (34309)	
研究分担者	平岡　華奈江 (Hiraoka Kanae) (80877960)	京都橘大学・看護学部・助手 (34309)	
研究分担者	深尾　沙紀 (Fukao Saki) (40909412)	京都橘大学・看護学部・助手 (34309)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関